

製品名: PRP19 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16540**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	PRPF19
別名	PRPF19; NMP200; PRP19; SNEV; Pre-mRNA-processing factor 19; Nuclear matrix protein 200; PRP19/PSO4 homolog; hPso4; Senescence evasion factor
遺伝子 ID	27339.0
SwissProt ID	Q9UMS4
免疫原	抗血清はヒト PRPF19 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

背景

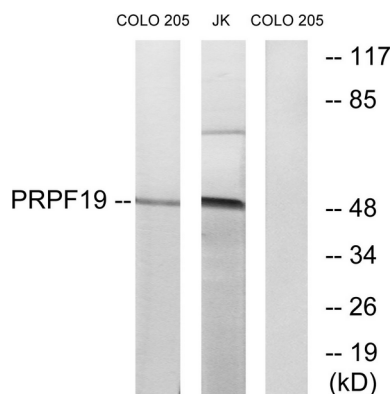
PSO4 は、細胞の生存と DNA 修復に必須の遺伝子である酵母 Pso4 のヒト相同遺伝子です（Beck et al.、2008 [PubMed

18263876])。[OMIM 提供、2008 年 9 月]機能: DNA 二本鎖切断 (DSB) 修復およびプレ mRNA スプライシング反応で役割を果たします。配列非特異的に二本鎖 DNA に結合します。核フレームワークの構成成分として機能します。スプライソソームの結合および活性のサポートとして機能する場合があります。オリゴマー形成依存的なスプライソソームの組み立てに必須であり、スプライソソームの安定性にも重要である可能性があります。E3 ユビキチンリガーゼ活性がある場合があります。PSO4 複合体は、DNA 鎖間架橋 (ICL) 修復プロセスに必要です。PRPF19 の過剰発現は、ストレス耐性の向上、または細胞の DNA 修復能力の改善により、細胞寿命を延ばす可能性があります。誘導:ガンマ線および化学変異原によって誘導されますが、UV 処理では誘導されません。類似性:WD リピート PRP19 ファミリーに属します。類似性:1 つの U ボックス ドメインを含みます。類似性:7 つの WD リピートを含みます。細胞内位置:間期細胞では核質。後期細胞では不規則に分布。前期細胞では均一に分布しますが、凝縮する染色体とは関連がありません。中期細胞では染色体外領域に見られます。後期に染色体が分離する場合、主に有糸分裂紡錘体装置に局在します。後期終期に核が再形成される場合、娘細胞に均一に分布し、脱凝縮するクロマチンとは優先的な関連を示しません。サブユニット:ホモオリゴマー。スプライソソーム C 複合体に同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRPA1、HNRPA2B1、HNRPA3、HNRPC、HNRPF、HNRPH1、HNRPK、HNRPM、HNRPR、HNRPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B、PRPF6、PRPF8、RALLY、RBM22 から構成されています。RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2、ZCCHC8。PRPF19、CDC5L、PLRG1 からなる PSO4 複合体の構成要素。DNMT/TdT および PSMB4 と相互作用する。組織特異性: 普遍的。様々な組織起源の老化細胞で弱く発現する。腫瘍細胞株で高発現する。、

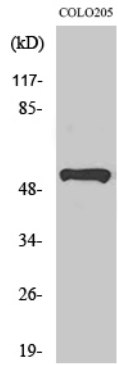
研究分野

スプライソソーム;ユビキチンを介したタンパク質分解;

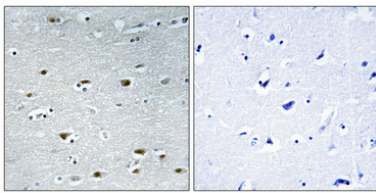
画像データ



PRPF19 抗体を用いた COLO 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



PRP19 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。